

## 令和元年度木更津市社会教育委員会議第3回定例会 会議録

1 会議名 令和元年度木更津市社会教育委員会議第3回定例会

2 開催日時 令和元年12月19日(木)午後3時～5時

3 開催場所 木更津市役所駅前庁舎 防災室

4 出席者名

委員：鉢村美幸、森廣賢一、中村みどり、城戸富貴、鶴岡俊之、吉田裕子、  
伊藤素子、地曳昭裕、内田慎一郎、熊本秀樹(10名)

事務局：高澤茂夫教育長、岩埜伸二教育部長、秋元淳教育部次長、  
野口琢郎生涯学習課長、鈴木和代課長補佐、木村容子副主幹、  
近藤麻衣主任主事、安川朱里事務員(8名)

5 協議事項

(1) 各種審議会・協議会報告について

(2) 第54回千葉県社会教育振興大会及び第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会に  
ついて

(3) 令和2年度成人式について

(4) 社会教育施設の複合化について

(5) 今後の社会教育委員会会議の持ち方について

(6) その他

6 会議の公開・非公開の別及び傍聴人の数 公開・傍聴人0名

7 資料

令和元年度社会教育委員会議第3回定例会次第

第54回千葉県社会教育振興大会開催要項

千葉県教育委員会主催社会教育専門講座「生涯学習実研修会」資料

第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会資料

令和2年木更津市成人式の開催について

社会教育施設の複合化について

今後の社会教育委員会会議の持ち方について

木更津市立公民館(まつり)視察アンケート結果

第16回木更津市こどもまつり写真集

木更津こども劇場第100回公演記念

## 8 会議の内容

事務局 これより令和元年度木更津市社会教育委員会議 第3回定例会を開催いたします、委員18名中、10名の出席であり、欠席は8名であります。従いまして、社会教育委員会議運営規則第3条第2項の規定により、委員の2分の1以上の出席がございますので、本日の会議は成立しております。

なお、本会議は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されております。本日の傍聴人はございません。以上報告いたします。

最初に、内田議長からご挨拶をいただきます。

内田議長 皆さんこんにちは。本当に年末のお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。前回の定例会の際に、今後の社会教育委員会のあり方について提案させていただいたことについて、再度皆さんと協議させていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

事務局 ありがとうございます。続きまして、高澤教育長よりご挨拶を申し上げます。

高澤教育長 本日は師走の大変お忙しい中、今年度第3回目となります社会教育委員会議にご参加いただきましてありがとうございます。

学校もインフルエンザが流行ってきました、今週は清見台小学校、祇園小学校、岩根小学校、真舟小学校等で学級閉鎖や学年閉鎖が出ています。

さて10月10日の第2回定例会の際に台風15号のお話をさせていただきました。その直後に台風19号に見舞われ、4日間にわたって公民館、各小中学校の体育館等を避難所として開設いたしました。

ピーク時には、857世帯、1,657人の方が、一時避難という形の中で、公民館や小中学校へ避難をしています。その後、10月25日にも大雨がございまして、この時も54世帯、107人の方々が避難をされて、その都度私も教育委員会も、特に公民館や生涯学習課を中心にして、その対応にあたって参りました。このような経過を受け12月1日付けで、市役所の組織改編がありまして、被災をされた市民の皆様の生活であるとか、住宅再編再建の支援をしましょうということで、新しく災害復興支援課という課ができました。

そういったことを受け、今回の12月議会の中の一般質問でも、災害対策関連がかなり多く出されました。今後もしばらくの間は、この被災状況の復興に向けての動きが出てくるかと思えますけれども、今回のこの状況をしっかり踏まえながら、今後の対応にも教育委員会としてあたっていくたいと考えています。

この秋に行われた行事も、随分台風や大雨等で延期等もありましたけれども、とりわけ、富岡・富来田地区の被害が大きかったものですから、地区の文化祭等は開催ができませんでした。しかし、その他の地区の文化祭であるとか、生涯学習フェスティバルであるとか、そういったものは無事実施をすることができました。いろいろな形でご協力いただきましてありがとうございます。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

先ほど、議長さんから、社会教育委員会議の持ち方についてお話がありましたけれども、今回の定例会につきましては、前回に引き続いて、公民館の複合化である

とか、それから今後の会議の持ち方であるとか、そういったものにつきまして忌憚のないご意見をいただければありがたいと考えています。

それでは限られた時間になりますけども、第3回の定例会、よろしく願いしたいと思います。

事務局 ありがとうございます。会議に入ります前に、資料の確認をご一緒にお願いいたします。

#### 資料確認

それでは会議に入って参りたいと思います。今後の進行につきましては、木更津市社会教育委員会議運営規則第2条第4項によりまして、議長にお願いいたします。

内田議長よろしく願いいたします。

内田議長 協議事項の1番、各種審議会協議会の報告でございますが、男女共同参画推進委員の中村委員、いかがでしょうか。

中村議員 特にありません。

内田議長 わかりました。ありがとうございます。それでは、続きまして、協議事項2番目でございます。第54回千葉県社会教育推進大会及び第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会について出席された城戸委員からご報告をお願いいたします。

城戸委員 第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会で11月7日に川越に行っておりました。もう大分前のことなので、簡単に覚えていることをお伝えします。

川越大会は、「人生100年時代における社会教育の実践」というテーマで開催され、2日目の分科会のみ参加しました。私は第2分科会に行きまして、浦安市の高齢者による高齢者のための回想ボランティア「浦安の思い出を語る会」の発表を聞きました。これは、昔の思い出を話したり、昔の写真を見せたりすると、いろいろなお話がどんどん出てくるという取り組みの報告でした。

もう一つは横浜の青葉区の市ヶ尾ユースプロジェクトの発表で、豊かな経験を持つ大人と中学生高校生が力を合わせてまちづくりをやっているという取り組みでした。横浜市青葉区の家庭支援課の事業として、市ヶ尾高校と市ヶ尾中学校、それからNPOなど、それら様々な主体が協力して2017年からスタートしているという報告でした。

それから11月28日の第54回千葉県社会教育推進大会ですが、ここでは、分科会の前に全体会でお話がありました。皆さんのところに配られている資料のとおり馬場勇次郎さんという方の講演がありました。これがとっても良かったです。

私は、これからこれを勉強したいなという資料でした。皆さんに配られているので後でゆっくりご覧になったら良いと思います。

そのあとの分科会では、私は、大網白里市の子ども会育成連絡協議会の「子育て支援と社会教育」の事例発表を聞きました。子ども会の活動とジュニアリーダーを育て、そしてつなげていきたいという、川越大会と同じような話を聞いてきました。

以上です。

内田議長 ありがとうございます。この件についてよろしいでしょうか。

それでは、続きまして、協議事項3番目、令和2年成人式についてでございます。

事務局の方から、よろしくお願ひいたします。

**事務局から報告**

内田議長 この件について何か、ご意見ご質問等がございますでしょうか。

鶴岡委員 素朴な疑問ですが、実行委員さんの役割というのが非常に大きいと思いますが、各中学校の卒業生から1名とありますが、傾向的に誰がその学校から選出されるのですか。例えば生徒会長さん、生徒会長経験者なのかどうか。それは学校で選出をするのかどうか。

事務局 ご質問のとおり、最初に教育委員会生涯学習課の方から、学校の校長先生宛に推薦依頼をいたします。生徒会に携わった会長さんですとか、地域に残っている生徒会の役員の方がほとんどを占めております。

ただ、私立の学校につきましては、地元に住んでいるお子さんは少ないので、昨年度の実行委員の方から推薦をしてもらい、学校へ伝え、推薦をいただくこともございます。以上です。

鶴岡委員 ありがとうございます。木更津市の将来を担ってくれる方々なのかなと思っています。

内田議長 ありがとうございます。

森廣委員 2点質問があります。

1点目は、出席率はどのぐらいか。

2点目は、アトラクションというのが、ここ数年来、「思い出のスライドショー」等が多いと思います。企画は実行委員に委ねられていると思いますが、内容は徐々に進化しているのか。前年踏襲じゃなくて、少しずつであるけれども、自ら新しい企画でやっているのか、というその2点を聞きたいです。

事務局 全体の出席率は、大体7割です。今年もそのぐらいと考えています。

アトラクションについては、こちらは毎回悩みどころですけれども、第1回目の顔合わせの時に投げかけをいたします。学生さんや、仕事を始めて数年の方がほとんどなので、昨年はどうだったのかということが、まず質問として聞かれます。そして私どもの方も、昨年の資料や映像を見せて、「こういったことやりました」でも「皆さんに自由に考えていいですよ」と話しています。

ただ、月2回という限られた時間の中での話し合いになりますので、どうしても前年と同じような、スライドですとか、恩師の先生からのメッセージをいただきたいということになっています。

内田議長 ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

森廣委員 その実行委員の件ですが、今年、畑沢中学校に、実行委員がないということを知りました。ちょうど私の子どもが昨年成人式で年が近いので、保護者などに電話をさせていただいて探しました。生徒会とか組織の中で、中学校を卒業するときに、成人式をこうやってやりましょうという話をしていると思いますが、先生方が代わったりして、全然コミュニケーションが取れてなくて、選出ができない学校はあると思います。

また、畑沢に関しては後援会っていう組織があったので、後援会の方に、話をし

てもらえないですかっていうので変えていきたいと思いますというになったのですが、他の学校は、すんなり決まりますか。

事務局 畑沢中学校では森廣委員にお世話になりました。他の学校ですと、太田中学校がなかなか決まらない状況でございました。白石委員にお願いをした経過がございますが、結果的には、生徒会の方から出していただきました。畑沢中学校は、学校からではなく、地域から出していただいたという状況がございました。

森廣委員 今後、その体制で依頼をするのですか。少し不安なので、その辺りを少し考える時期なのかと思います。

内田議長 ご意見ということでよろしいでしょうか。

森廣委員 はい。

高澤教育長 お話しいただいたことはよくわかります。私も、校長をやっている時に市から依頼があって、当時の生徒会メンバーの一覧表で拾っていきましたが、ちょうど19歳、20歳は、大学で遠方に行っている子も随分います。会長さんからお声を掛けさせていただいて、この正月は戻りません、という方もいます。そうすると一般的には、会長さん、副会長さん、書記、会計とかけていって大体がおさまるのが私の印象です。後からここに住んでなくても、成人式は戻って出ますという方も随分いますので、学校なりにいろいろな努力をしているというのは感じていますね。ただ、やっぱり会長さん副会長さんあたりが多い印象はしています。

内田議長 その他にはいかがでしょうか。先に進めさせていただきます。

それでは、次に、社会教育施設の複合化についてございます。

7月に視察をして、第2回の定例会でも、皆様方と意見交換をしたところがございますが、引き続き意見交換をしたいというふうに思います。まずは、事務局から、ご説明をお願いします。

#### **事務局から説明**

内田議長 ありがとうございます。

それでは前回に引き続きと、いうことになりますが、この件について、皆様方とお話し合いをしたいと思います。いかがでしょうか。

内田機長 前回定例会を欠席された鶴岡委員、いかがでしょうか。熱心に写真も撮っておられましたので。

鶴岡議長 7月の視察は本当に有意義で、初めての施設見学だったので、本当に写真をたくさん撮らしていただいて、私も公民館運営審議会委員を代表しているという意識を持ちながら、前回の公運審の会議の中でも報告をさせていただいて、今後の議論の大きな柱にさせていただきたいと発表したところでございます。

やはり木更津で、もし複合化するとした場合の課題点というのはあると思いますが、メリットは学校教育というところの中に社会教育という、地域の大人が入るといことで、子どもたちが、自分の家族以外、昔はよく地域の大人との触れ合いがありました。今は本当に学校との往復や、それこそ、車で送り迎え等も増えているので、地域の大人と子供が触れ合う機会が少なくなっているという意味では、学校に公民館があるとすれば、地域の大人はよく見えるし、さらに各行事で、触れ合

いやすいということで、家族以外の大人と触れ合う機会になるのかなというのが一つ一番大きなところだと思います。

あとは、公民館には、日頃文化祭や子どもまつりとか、各行事に限定して子どもが公民館に来るといことが多いと思われまます。私自身も子どもの時にあまり公民館に行った記憶がなく、逆に先ほどのように、地域の大人に怒られたり、地域の大人と話をしたりとか、会話したりとかっていう、場面があったので、地域の中にも地域に守られているなという意識はあったのですが、今なかなか学校との往復だけになってしまうので、子どもたちが将来、公民館を利用するというような、成長しても公民館というものを身近に感じてもらえるきっかけにはなるのかなあということがメリットだと思います。

一方、学校教育のサイドから考えるとやはり、防犯とか安全面の部分があります。視察した2つの施設については、厳密に仕切られてはいなくて、共通に利用できる部屋もあり、そのフロアは本当に垣根なく、子どもの姿が公民館利用者から見える。子どもと地域の大人が交流、顔が見えるという部分では非常に有効だとは思いますが、学校サイドでは子どもを守るということが最大の目的でもありますので、そこからすると、学校現場の職員も含めて議論が必要です。しっかり安全が確保される不審者対策ができていて、学校サイドが安心して過ごせるような施設にしていくかということが、ハード面でも非常に大事なことでしょうし、ソフト面では先生方の意識の問題があります。今までは、同じ職場の先生方と、子どもと保護者というところに地域の方が加わり、触れ合うとなったときにどのような意識を持っていたらいいのかっていうことは、かなり議論が必要なのかなと思いました。

資料を持ってこなかったのが、取り止めもなく話をしてしまいましたが、メリットとデメリットが当然あって、デメリットに関してはハード面とソフト面と、学校サイドから考えると、非常にハードルが高いという気がしました。まとまりがなくて大変恐縮でございます。発言の機会をいただいて感謝します。ありがとうございます。

内田議長

吉田さんどうですか。

吉田委員

私も参加させていただいてやはり安全面とかいうのはとても気になる問題だなと思いました。

木更津市では、金田地域交流センターが出来上がって、あれも一つの複合施設になるのかなっていう思いがあって、今どのように稼働の仕方をしているのかなというのも少し気になりました。

これから今ある15公民館を、複合施設として考えていく時にやはり、全部は残せないだろうという意見が聞かれている中で、そうなるとうやはり若い方は、車があったりとか、お子さんの場合だと家に送ってもらったりとかそういう交通手段を考えて、駐車場はどうするのか、そういうことも考えていかなくてはいけないと思います。

息子や娘に聞いても、「公民館？お母さんたちが行くところでしょう」みたいな、感じなので、若い人の意見を取り入れて考えていかなくてはいけないし、木更津市はPR不足です。

内田議長            ありがとうございます。他の委員の方、いかがでしょうか。前回発言したからといって、発言しなくていいというわけではないので、ぜひ発言していただければと思います。

中村委員            定例会を2回欠席してしまったので、すごくいろんなことが進んでいるなと思いました。私も秋の台風がなければ他人事だったのですが、「防災と公民館」というのが今まで以上に、これから大事になってくると思います。防災、それから学校教育、青年も子どもも皆がこられる公民館というものをいろいろ考えていかないと。

先ほどもどなたかおっしゃっていましたが、車が運転できる方でも、車を運転して公民館へ行く途中で危ない目に遭っている人もいるし、その拠点の公民館を減らすことになると、不安になる方もすごく多いと思います。公民館が防災の拠点になっているというのを、どれぐらい市民の人が知っているのか、どこへ行けばいいのかというのがわからないと、結局SOSの出し方もわからない。今回の議題からいろいろ考えるところがありました。

それからもう一つ、文化ホールの協議検討については市職員ではなくコンサルティング会社が話し合いを主導しているという、そのワークショップに、2、3回出ましたが、総務部がやっていて、生涯学習とは連携が全然取れてなくてびっくりしました。社会教育委員会議で視察にも行っているのに、全然連携が取れてないなって。まず、市の職員の方が、より一層寄り添って、そういうところの連携からまず取って欲しい。もっと皆で共有する部分がないと複合化の話は進むのが難しいのではないかなと。

内田議長            ありがとうございます。

中村さんの今の話は、役所内での連携も懸念材料になるというようなところですかね。

地曳委員            僕も中村さんと同じように、複合化を考えたら、市役所内の連携が非常に、大事だと思います。自分たちが視察したところは、強力なリーダーシップの教育長だとか、学校長がそのように関わったということで、たまたま複合化が推進されてきたのですが、リーダーシップというのは普遍的ではない。複合化とかそういうものを主導していくには、市役所内での複合化に対する職員間同士の意識の連携といいますか、そういうのが必要だと僕は常々思っています。

市民ホールのワークショップに関しては、最終的にどのような結論になるかわかりませんが、司会もすべて進行もそのコンサルティング会社がやっていて、本来は、そういうものは市の職員が、きちんとやるべきでしょうけれど。

財政的にはもう複合施設当たり前のことですが、再配置計画等を見ても、例えば、総務部あたりでは、こういう形で、予算は圧縮して、大きなグランドデザインをかけるのでしょけれど、実際にその施設を運営していくにはやはり連携ってというのは絶対必要になる。「まちづくり」という言葉を取ってみても、企画もあるし総務もあるし、生涯学習もあるし、市民活動支援課とか、或いは福祉の方と色々な課の中でそういうものを話し合わなきゃいけない。各課での連携、複

合化に対する連携が、前提条件だと思うのです。財政的に逼迫しているのです、それを軽減するには、複合化施設という主張をするのであればそれと同時に、市の職員同士の課を超えた意識の連携というのが、セットで必要じゃないかと思っています。

内田議長

ありがとうございました。

熊本委員

皆さんにお伺いしたいと思うのですが、「複合化は必要だ」という前提のもとにお話をしていいのでしょうか。それだけちょっと確認させていただきたい。

複合化が決まりだということになれば、複合化に向けて、今の皆さんからご意見が出ているように、役所体制をどうする、安全はどうする、個別にきちっと一つずつ詰めていく。まず、複合化はやるのですかね？

地曳委員

再配置計画が出たときに、20年後とか、30、40年後とか見据えて、そういうことを、公共施設を再配置するときには、複合化というのをセットで言っていましたから、もう路線だと僕は理解しているのですが、皆さんどうですかね。そういう流れですよ。どうですか。

岩埜部長

地曳委員がおっしゃる通り、再配置計画で、今の施設の数は今後維持できないという結果となっています。26.7パーセントを削減するということになっています。そのうち、教育施設が67パーセントあります。いわゆる対応年数を過ぎた学校プラス公民館については一中学校に1公民館がございますので、その辺で複合化を検討するというような形になっています。各施設について、対応年数と合わせて、効果を検討して、面積を減らしていくという。今回の中規模ホールについては、700席程度の中規模ホールと多目的ホールということで、多目的ホールは400席ぐらいの今の中ホールと同等のものを。公民館は検討に入っていないですが、いろいろな多目的な施設ということで、現在、基本計画に入れていきます。

市役所の中では連携をとっています。役所内の連携は必ず、該当する部課は、委員として入っています。生涯学習課とか中央公民館、のレベルの意見もどんどん入れながら、よりよい施設に向けて検討はしていきます。

内田議長

ありがとうございます。

熊本委員

もう1回確認だけ。複合化について良い悪いの話ではないですね。やらないとかやるとかっていう話はもうなしですね。やるという前提でお話をさせていただくということによろしいですね。

岩埜部長

木更津市の方向性として、現状のすべての施設を、30年40年後には維持できないと。23%を削減するには、複合化、当然廃止もあります。残すならば複合化することで、面積を減らしていくという、それで維持管理、ランニングコストを減らさないと施設が維持できないと。

熊本委員

ここで私たちが意見を申し上げるのは、もう複合化をするためにはどうすればいいかということによろしいということですよ。複合化のためにはどうすればいいかっていう意見を、ということによろしいでしょうか。そこのところが少しあやふやだったのですよね。

野口課長

複合化の中で、一番近くて、また、今再配置計画の中で言われていることが、第一中学校と、中央公民館の複合化を検討しますという話があるのですが、中学校の方も建て替えが一番近くて10年後ぐらいということになります。

複合化をするのかしないのかということを決めるということではなく、将来、複合化するにあたってはどういったことが必要かとか、どんなことに注意しなければならないのかとかそういったことを、今、話をしておいた方がいいのではないかとということで皆さんに意見を言っていたりしているというところと私は認識しているところでございます。

高澤教育長

再配置計画は、複合化をするという話じゃないですので、そこだけ間違えて欲しくはないのですが。

これからどんどん、老朽化をしていって、学校も多分建て替えをしなくてはいけなくなるでしょうし、公民館も建て替えの時期を迎えてくるのですが。一つの方法として、複合化というのがあるということで、すべてのところを複合化するというふうに再配置計画が言っているわけではありません。ただ30年先を見ていったときに、この複合化というのが一つの大きな方向転換にはなると思うのですが。ですからすべてがすべて複合化とは言っていないと。

そういうことを検討すべきでしょうという話ですので。ただ30年先になると、学校と公民館の複合化も、出てくるのでしょうけれども、30年先になると今小中学校が30校ありますけれども、多分20校以下になると思いますよね。どんどん子どもが減ってきますので、これから、今のままの学校数が残るわけではいでしょうし、統合もどんどん進むでしょうし、一中学校区に1公民館というのがどんどん崩れていると思います。そういうことも絡めながら見ていかないと。

複合化ができるところもあるかもしれませんが、それから複合化に至らないところも、あるでしょうし、複合化をする前に学校が統廃合になってしまうとか、いくつも出てくると思います。あくまでも計画は30年先の計画ですので、そういうこともある程度視野に入れてという形になると思います。

ただ複合化というのは一つの大きな方向でしょうから、実際複合化するときにはどういうメリットがあってデメリットがあって、どういう条件がそろえば、できるのかということは十分私たちが考えていかなければならないだろうと思います。

もう一つは、今ある学校施設の中に、公民館を入れていきたいと思いますという話もよくあるのですが、「現状のままでは入りませんよ」とよく話すのですが。教室も空いている教室が随分、出てきているのですが、なかなか子どもたちが隣で勉強している教室に入っても、ちょっと公民館としては使えないでしょうし、学校の使い勝手が悪いのは、校舎の1階は皆特別教室ばかりで、職員室であるとか保健室であるとか、そういったものが中心で、2階、3階に子どもたちが入る教室、その上が随分空いてくる。ですから現状のままでやはり学校の校舎は使い勝手が悪いですから、新しく学校を建てる、新しく公民館を建て直すっていうときに、この複合化というのはものすごく大きなメリットがあるだろうなどは思っています。

す。

内田議長  
熊本委員

ありがとうございました。

複合化のために、実際にはこういうことをやっていけば、安全面もうまくいくとか、そういう具体的な話を我々は、少し出していくのがいいのかなと思いつながら、お聞きしたところです。

今、教育長が言ったように、どこの場所で、どう複合化するかは、これから時間も場所によっても違うでしょうから、それはまた別の話だと思いますけれど、動かすための問題点を解決するために我々はどういうことを、やればいいのか。安全とか組織とか、そういうことでのご意見を、言えればいいのかなという感じでよろしいですか。

内田議長  
鶴岡委員

よろしく申し上げます。他にはいかがでしょうか。

ちょうど今同じ時間帯で公民館運営審議会をやっております。前回の公運審で私が（視察について）話した内容で、グループ討議等もやっていますが、最終的に公運審としてはこうしようというような結論まで出ておりませんので、あくまで私の、今までの経緯を踏まえた、私的な意見なのかもしれませんが、公民館、公運審という立場で、公民館という立場で述べさせていただきます。

数年前の有料化の時には、公運審としては明確に「有料化は反対」という立場をとりましたが、複合化については、反対とか賛成とかそういう話は一切今までしたことがない。しかし、複合化の問題の元を考えるとやはり地域住民の社会教育とか、地域との触れ合いとか地域づくりとかという部分について、当然公民館の果たす役割が非常に大きいということは皆さんも同じように思っていると思います。

再配置計画の中で言われている旧行政区の8地区にするということは、公民館が8つになるということではなくて、そうなるとも思っていないのですが、先ほどお話した通り、やはり公民館は地域になればいけない、地域の社会教育の場、触れ合いの場だと考えると、なるべく減らしたくないと、多分公運審の立場とすると、基本的な思いがあると思うんです。

そう考えたときに、一つの方法として、その地域の核となる公民館を減らさないために、維持できない施設はなくすとしても、公民館としてのスペースを維持するために複合化ということで学校にお邪魔をするということはあるかと。

複合化で二つの公民館を一つにした場合、遠くなってしまうのですから、特に高齢の方は、遠くなれば足がなくて公民館を利用ができない。今の生活圏、自治会とかそういった町内会、地域の繋がりを意識するのであれば、なるべく、小規模で、小地域で、今の公民館の役割を担える施設というのは、仮に複合化であっても、学校の一部を間借りするとしても、残すというのが、一つの手段なのかなと。

もう一つは、この間のグループ討議で話が出たのですが、人口の分布が地域で全然違って、例えば具体的に言うと、真舟地域、請西南とか請西東というのは、本来、あれだけの住宅地であれば、新しい公民館的な施設があってもしかる

べきではなきかと、社会教育の場があってもしかるべきではないかと。廃止というよりはむしろ、移転というか、新規に必要な地域もあるのではという話は前回の公運審のグループ討議でも出たので、そこは柔軟に、単純に16を8にする、旧行政区とかそういうことはなくて、将来を見据えて、人口がどのように流れていくのか、地域住民が、どのように移動していくのかというようなことも踏まえて、あくまでベースは地域住民、また、当然そこに子どもたちが付随するので、学校というのもついてくるとは思いますけども、そういったことにも目を向けなければいけないという話も出ました。

内田議長 再配置計画の中で、面積を減らさなければいけない。それと合致するためには、スペースを減らして、複合化にするということも一つの考え方としてあるということですよ。

地曳委員 どうしても複合化というと、施設というか、ハード面ばかり思うのですが、施設も大事ですが、人材を育てることと対になっていないと。施設の面積は減るかもしれないけども、社会教育の全体のボリュームが減らないように、もろもろの施設を使ってできる人材、リーダーを育てていかないと。先ほどの、市の職員の連携とかも含めて、考えていかないといけないと思うんです。

社会教育、公民館に対する思いだとか造詣の深い人が少なくなる中で、今の30代40代の人たちにそういう公民館とか社会教育の必要性を継承していかなければいけないのですが、そういう人材づくりというのは、大きな課題ではないかと思えます。

鶴岡委員 全くおっしゃるとおりだと思います。社会教育専門職員の人数や配置の状況の問題が前から出ていて、複合化を仮にしたとしても、そこで社会教育ができるような市の職員が必ず必要だと思います。

視察で一番思ったのは、ここにもありますが「不審者は空から降ってくるわけじゃない。道を歩いて、皆さんの近所の前を通ってくる。地域全体で守ろう」みたいなそういう教育長がおっしゃったリーダーシップが具体化したのがあの施設だと思うのです。なので、本当に人の教育もそうだし、綺麗事かもしれませんが我々市民の、そういった社会教育的な精神とかそういったものも大事なのかなと思いました。

内田議長 ありがとうございます。他にどうでしょうか。そうしましたら、こちらの議題につきましては、前回と今回、皆さん方からご意見をいただきました。とりあえず大体皆さんのご意見をいただいたということで、収束させていただいてよろしいでしょうか。

それでは続きまして、今後の社会教育委員会議の持ち方について、まず事務局から、お話いただければと思います。

#### 事務局から説明

内田議長 今後のこの会議の持ち方については、前回、今日までにある程度皆さん方から、課題等を持ち寄っていただいて、その中で、2年間のスパンの中で、一つのものについて考えようじゃないかというお話をさせていただいたところでしたが、今

事務局からもお話があったような形で新たに提案させていただきます。今後このような形で進めてみたいと思いますが、この辺について、皆さん方のご意見、ご質問等ありましたら賜りたいと思います。

**事務局から補足説明**

内田議長  
地曳委員

皆さまいかがでしょうか。

いつも感じていることですが、結構いろいろな社会教育を市やサークルでやっているのですが、その情報が上手く伝わっているのかというのがあって、いろいろなものが公民館に置いてあるのですが、もう少しうまく伝えられる方法があれば、いろいろな人が興味をもってくれればと。例えば、出前講座なども、ご存じの方いらっしゃるのかなと思って。広める方法の良い知恵がないかなって。市役所に行くとかたくさん（チラシなどが）置いてあるのですが、なかなかそれを手に取ってということを皆さんやっていないと思います。結構一生懸命見ると、こんなものがあるのかすごいね、いいねというのがいっぱいあります。

内田議長  
地曳委員

ありがとうございます。そういった情報を集める、ネットワークでしょうかね。そういうことの構築みたいなのということでしょうか。

今、市のホームページにいけば皆出ています。でも、いろいろな方とお話していると案外ご存知ないことが多い。もうちょっと皆さんの目につくようなことができないかなといつも感じていたので、お話させていただきました。

内田議長

ありがとうございます。先ほど、吉田さんもPR不足というか、他団体がやっていることについて、興味を示さないってということなんでしょうかね。この辺について何か、お願いします。

吉田委員

自分からホームページにて探す作業は面倒くさい、でもあんまり行き過ぎるのもよくない、なかなか難しい兼ね合いというところがありますが、やはりSNSを使って、ちょっと興味ある方はアプリを見て情報が入られるような。

内田議長

ありがとうございます。「らぶナビ」がありますよね。

高澤教育部長

「らぶナビ」というアプリがございまして、こちらのツール使ってどんどんやっているのですが、なかなか情報発信がうまくいってないということですね、なかなかダウンロードの方が難しいということ。これ企画の方でやっているのですが、情報発信は、市長の方も、まだ足りないだろうとおっしゃっています。その中に、今回社会教育に関しても、何か食い込めないかということは、ちょっと検討していきたいとは思っております。

内田議長

「らぶナビ」はポップアップというのでしょうか、何か情報やお知らせがあると必ず音が鳴りますから。

吉田委員

「らぶナビ」で調べるのですが、次から次へと探していかないと出てこない。たどり着いたときにはもう終わっていたというのものもある。登録しておけば「こんなものがあるよ」と通知がくるシステムになれば、いいかなと思って。もうちょっと気軽に、探さなくても情報が入ってくるような。

伊藤委員

情報を取りに行こうとする人は取りにいつている。本当は、子育てで悩む人とか、引きこもりがちな人に届けたい情報がきっと公民館事業にたくさんあって、

そういうものが届くべきところに届くようなことができればなというところが多分一番大事なのかと。

地曳委員 欲しい人に欲しい情報がいつてないってということだと思いますけど。らづナビは、企画の人たちだけでやっているのですか。

事務局 主催事業をやるときに、その情報を、フェイスブックやらづナビにも載せられるシステムはあります。

地曳委員 今はもういろいろ情報が錯綜していて、なるべく、楽しんで、買い物でも、電話なんかしないで、ポンポンとできる時代ですから。ですから、それこそ、専門家を招いて、利用しやすいようなシステムを考えた方が良いのではないかと思います。そういう技術は常に進歩しているので、2、3年前の情報の収集のやり方はもうすでもう古くて、どんどんどんどん、新しくなっていますから。情報提供の仕方は、短期的にそういう専門家を招いて毎年毎年更新すればいいと思います。

自分たちも商売する中でもそうですよ。昔はホームページに、そういう情報をただ載せておけばよかったのですが、今はそうではなくて、ある情報をその相手先の玄関に届くような、そういうサービスをやっていないと、なかなか難しい状況になっています。要するに、皆さんが即効性を求めているんです。そういう時代ですから、そういう時代に基づいた情報提供というのが当然あるのではないかと思います。

高澤教育長 ちなみに、らづナビの今日のイベントを開くと、令和元年度社会教育委員会議第3回定例会、公民館運営審議会も載っているし、桜井公民館では家庭教育学級、岩根公民館ではパソコン教室をやっています。皆網羅されています。ただこれはらづナビに入っていないと見られない

内田議長 らづナビの普及は把握できているのでしょうか。例えばダウンロードしている人数など。

事務局 今数字はわかりませんが、所管課で把握していると思います。

内田議長 どんどん、日々変化していますからね。

城戸委員 はっきり場所がわからないのですが、4時半から5時の間にニュースを流すんです。「今日はこういうことがありました」と。夜8時からまた30分ぐらいにも、「明日はこういうことをやります」という、そういう町がありましたね。これはなかなか良いなと思ったけども、小さな町役場だからもしかしたらできるのかもしれない。

内田議長 ありがとうございます。それでは皆さん、どうでしょうか。今後の、この会議の持ち方ですが、先ほど事務局からご提案がありましたように、皆様方にご協議いただきたいことについて、タイムリーな、今ちょっと、らづナビという話も出たのですが、そういったご協議をいただきたい事案について、事務局からご提案いただいて、それを社会教育委員会議で討議するという形式を今年もやっていくということによろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。それではこの件については、閉じさせていただきます。最後です。その他ということですが、事務局なにかあったらお願いします

す。

事務局           こちらからはないのですが先ほどお話いたしました、今日お配りさせていただいた冊子のご説明を伊藤委員からお願いできればと思います。

伊藤委員           先月の11月16日に開催いたしました「第16回木更津こどものまつり」の写真報告書を配付させていただきました。こどもまつりは年に1回11月の第3土曜日に、毎年開催しております、今年で16年目を迎えました。社会館保育園の園長が実行委員長となりまして、主催としては市民活動支援団体の方々にも実行委員に入ってください、地域子育てセンターゆりかもめが母体として運営を行っております。16年を迎えて、8,000人以上の方に来ていただいて、出店希望は100を超えて、にぎわいのあるお祭りとなっております、この写真報告書をご覧になっていただければと思います。

                  もう一つ合わせて配付させていただきましたが、人形劇場が、毎月1回人形劇を開催しております、100回目の記念講演を迎えたということで、記念誌を作成しましたので、合わせてご報告させていただきます。

内田議長           ありがとうございます。その他に何かありますか。

事務局           伊藤委員は、このこどもまつり実行委員会の事務局を中心的に担っていらっしゃる、今回このように、冊子をいただいて、皆様にご覧いただくということで、お配りいただきました。

内田議長           それでは、改めて皆さん何か発言したいということがございますか。よろしいでしょうか。それではですね、皆様方から、いろんご意見をいただきましたが、以上をもちまして、終了させていただきたいと思います。ありがとうございます。

事務局           本日はありがとうございました。